

令和元年度 第3回仙台市環境審議会

議事要旨

日時：令和2年2月3日（月） 10:00～12:00

場所：仙台市役所本庁舎2階 第一委員会室

I 次第

1 開 会

2 議事・報告事項

(1) 「杜の都環境プラン」改定検討部会における検討状況について

(2) 温室効果ガス削減アクションプログラムについて

(3) その他

3 閉 会

II 出席委員数

出席 22名

欠席 3名

III 議事要旨

司会	それでは、議事・報告事項に移る。 以降の進行については、仙台市環境審議会の組織及び運営に関する規則第5条第1項に基づき、渡邊会長にお願いする。
議長（渡邊会長）	初めに、会議の公開、議事録の署名について確認させていただく。 まず会議の公開に関しては、個人のプライバシーに関することなどで非公開の必要がある場合以外は、原則として会議を公開することとしているので、皆様よろしくお願ひしたい。
各委員	異議なし
議長（渡邊会長）	議事録の署名については、会長と出席委員1名の署名をもって正式な議事録にするということとしている。今回は佐々木真由美委員にお願いしたいが、よろしいか。
佐々木真由美委員	了承した。
議長（渡邊会長）	それでは、議事・報告事項に入る。 議事・報告事項（1）は、「杜の都環境プラン」改定検討部会における検討状況についてである。 昨年7月に審議会に検討部会を設置して以降、これまで4回に渡りご議論をいただいたと伺っている。私が委員を務める総合計画審議会においても、杜の都である仙台の良さを深めていくという方向で議論が進められている。総合計

	<p>画においても、環境プランで掲げる脱炭素等をきちんと位置づけていく必要があると考えているので、本日は皆様から積極的なご意見を頂戴したい。</p> <p>それでは、これまでの検討状況について、永幡部会長からご報告をお願いします。</p>
永幡幸司副会長	(検討状況の概要について説明)
事務局(参事兼環境企画課長)	(検討状況の詳細について資料1に基づき説明)
議長(渡邊会長)	ただいまの説明に対して、皆様よりご質問やご意見等をお願いします。
渡辺博委員	<p>議論の進め方についてお願いがある。</p> <p>先ほど永幡副会長からお話があったとおり、環境審議会は、市民団体や事業者団体、国の機関など、各セクターの代表の方々の方が委員を務められており、私たち市議会議員の委員も出席している。杜の都環境プランについては、最終的に議会で議決する必要があるが、その際に、環境審議会における意見を踏まえた上で、議論する必要があるため、ぜひ意見の有無も含めて、皆様からご意見を伺うような運びとしていただきたい。</p>
議長(渡邊会長)	手を挙げていただいた方から、忌憚なくご意見をいただければと考えていたが、そのようにご要望ということであれば、皆様から順番にご意見をいただきたいと思う。五十音順で、青木委員からお願いしたい。
青木ユカリ委員	検討部会に参加させていただいている。仙台らしさについては、一言で表現することは難しいが、資料のとおり、山や海など多様な自然環境があるということが仙台の強みであり、里山や都市など、それぞれの暮らし方にあわせて、行動を引き起こすような計画になっていくといいと考えている。
石川宣子委員	消費者の立場から見ても、全体的にすごく仙台らしい案だと感じている。今後、私たち一人一人が何をすればいいのかというところを、もう少し盛り込んでいただければと思う。
大越和加委員	私が所属する東北大学農学研究科には海外留学プログラムがあり、学生が海外へ行って学んでくる機会が多い。先日、1年間カリフォルニア大学へ留学して帰ってきた学生が、自販機には未だにペットボトルがたくさんあり、スーパーでは当たり前のようにレジ袋が渡されており、日本は環境に対して非常に動きが遅い、感覚が鈍いのではないかと強く言っていたことが印象的であった。私も意識していたつもりではあったが、ペットボトルの問題などは、私たちの市民生活に大きく関わる。仙台市も、世界の環境に対する動きに遅れないように、積極的かつ迅速に取り組んでいただければと思う。
奥村浩信委員 (代理出席： 今野環境・リ	仙台らしさを重視したプランを検討しているということで、大変感心している。「グリーン&クリーン都市プロジェクト」にも記載されているが、ワンウェイプラスチックの削減について、仙台市には様々な取り組みを行っていただい

サイクル課長)	ている。国では、本年7月からレジ袋の有料化を開始する予定だが、各自治体に対しては先行して特色ある取り組みをお願いしており、仙台市には引き続きよろしくお願いいたします。
小沢晴司委員 (代理出席： 伊藤環境対策 課長)	ご説明を聞き、特に意見はない。
風間聡委員	私も検討部会の部員であるため、特に申し上げることはない。
木坂理絵委員	環境問題について、日本は世界から国レベルで叩かれているところであり、仙台市が率先して様々な取り組みを行うことは重要である。 また、「行動できる人づくり」にもあるとおり、これからを担う子供たちや若い人たちが高い意識を持つように啓発する、ボトムアップの取り組みも重要だと思う。一人ひとりが高い意識を持つことで、市が変わり、県が変わり、国全体が変わっていくと思う。 あとは、定量目標をどのように定めるかが重要になってくると思う。
北川尚美委員	現行計画に対し、次期計画は非常に具体的で明確になり、よく検討されていると感心している。 私は、資源循環や廃棄物の付加価値化を研究しており、目指す環境都市像の『「杜の都」の資源が活用され、循環するまち』について、市民の力を資源と捉えることも1つの考え方であると思うが、他にも様々な資源があると思うので、もう少しイメージできる内容があってもいいと思う。
駒井武委員	私はもう1つの「地球温暖化対策推進計画」改定検討部会の取りまとめをしている。1月9日に第1回検討部会があり、温室効果ガス削減アクションプログラムについて検討を行った。特に評価基準については様々な議論があり、参加していただいた企業のインセンティブとなるよう、S評価やA評価を目指していただくとともに、中小事業者も積極的に参加していただけるような方向で取りまとめたところである。 また、私が所属する東北大学環境科学研究科では、環境局の職員に、講義の講師を務めていただいている。先日も講義の中で、留学生から、日本はペットボトルについて非常に遅れているという意見がある一方で、例えばインドネシアやタイと比較して、日本はごみ処理等が非常に進んでいるというような意見があった。環境行政は、国際協力の分野でも重要と考えているので、よろしくお願いいたします。
齊藤千映美委員	検討部会の委員であるため、意見は差し控える。検討部会では、今は行動する時代であり、次期プランでは、行動できる人づくりに取り組むべきだということで意見が一致しているが、本日の皆様のご意見を聞いていると、更に突っ込んでもいいと思った。
齋藤優子委員	私も検討部会の委員であり、本日は皆様のご意見を伺いたいと考えている。
佐々木雅幸委	私ども東北運輸局の施策としては、車の使い方などが関わってくるが、今回

員(代理出席: 山口計画調整 官)	のところは、特段意見はない。
佐々木真由美 委員	皆様からお話があったとおり、「行動できる人づくり」というのが重要である。世界的な課題であるプラスチックごみの削減に向けても、いかに行動できる人づくりを進めていくか、そこに仙台らしさをアピールできればいいと思う。
佐藤わか子委 員	<p>私は20年間、生ごみネットワークという活動を行っており、環境局と生ごみの減量に取り組んでいる。</p> <p>最近では、世界的にプラスチックごみが課題となっており、海外では昔の日本の秤売りのようなところまでやっている国もあるほど、プラスチック削減に向けた動きが加速している。資料にも「事業者と提携したワンウェイプラスチックの削減」と入っているが、もう少しプラスチック削減について、強くアピールできればいいと思う。</p> <p>また、「行動できる人づくり」とあるが、絵に描いた餅になってしまっただけでは意味がないので、どのようにして具現化していくかが重要であると思う。</p>
傳野貞雄委員	<p>私は仙台市連合町内会長会の会長を務めているが、仙台市には約1,400の町内会があり、連合町内会長会は、各区の代表が集まって構成されている。</p> <p>環境の分野では、ごみ集積所に直接関わっているが、プラごみの袋に、プラ以外の物を入れて捨てる方や、3月、4月になると家電を捨てていく方、他市町村のごみ袋を使用する方が多くて悩んでいる。市外から転入して来る方々に対しては、役所で手続きを行う際に、ごみの分別に関する冊子を配っているが、読んでいないようで、わかっていない方が多い。ごみ集積場で明確に表示していただければ、我々も注意しやすいので、分かりやすい掲示を設置するなど、町内会の各班長が困らないような方法を検討していただきたい。</p> <p>世界と比較すると、日本の環境は、水道がそのまま飲めるなどたくさんいいところがあるが、ごみに関してはマナーが悪いと感じている。</p>
引地智恵委員	<p>私は、事業者の立場で参加しているが、市内の事業者の多くは、環境についての意識が高く、再生可能エネルギーやエコカーの導入など、環境に積極的に取り組みたいと考えている事業者が多い。</p> <p>温室効果ガス削減アクションプログラムに参加することが、まさしく仙台らしさになると思っており、事業者の方々には積極的に呼びかけていただいているが、もっと盛り上げて意識を高めていただきたいと思っている。</p>
柳沼眞理委員	<p>私たちが環境学習をするときには、常に気づきを促し、そして行動できる人づくりを目指しているため、今回環境プランの中に「行動できる人づくり」という一言が入ったことは、とても大きなことだと思う。</p> <p>私自身は豊かな里山に暮らし、自然豊かな仙台らしいライフスタイルというのを、常に模索している。プライベートなことだが、娘がインドに嫁ぎ、今まで観光で行っていたインドで、今度は日常生活を行うという視点で暮らしてみたが、植物園に入るときに、カットされた果物をビニールに入れて持っていた</p>

	<p>らビニールは持ち込めないと言われたことがあった。また、野菜を買いに行くと、不揃いなものが山積みされており、その中から野菜を選ぶが、家に持って帰ってジャガイモをカットしてみると腐っていたりしても、それは全部自己責任である。さらに、農業国であるインド政府が農業を守るために規制をかけているため、欲しいものが輸入されていないという話もあった。規制することがいいことかどうかは別な議論として、そういうショック療法的なこともある意味必要かと思った。このように、他の自治体や国からも学ぶことがあるので、その辺も検討していただけたらと思う。</p>
<p>渡邊昭委員</p>	<p>私が所属する仙台農協は、仙台市、塩竈市、多賀城市と、松島町、七ヶ浜町、利府町の3市3町で構成されている。山から海まで幅広い環境がある中で、農業が環境による影響を一番デリケートに受けると感じている。例えば去年の台風19号で、六郷などの河川沿いの畑はほとんど流された。また、温暖化によって米やホウレンソウ、雪菜、白菜などの品質にも影響が出ている。</p> <p>また、里山についても、適切に保全されていないところが多い。イノシシの対策も必要であり、地元の協力で捕獲しても処理する施設がないため、そういった状況をぜひ改善していただきたいと思う。</p>
<p>渡辺博委員</p>	<p>各委員からのご意見を伺うことができ、会長に感謝を申し上げる。</p> <p>仙台らしさについては、最初はこういった考え方なのかと思ったが、広く市民の方々の理解が得られ、行動に参加していただけると仙台らしさにつながるのではないかと思った。また、国際的な視点からの意見があったが、国内はもちろん、国際的に見ても評価されるプランになりそうだと思う。</p> <p>国の関係機関の方々のお話も伺ったが、政令市という立場もあり、国や県との調整・連携が必要だが、一方で地方から政策を発信して国が採用するということが普通になってきている。岩手県の沢内村で、村民の皆さん方全員への健康診断を始めたところから、今では国を挙げて行うようになったという事例もある。仙台市では、その事業を率先して行った医師を衛生局の局長に迎えたという事例や、脱スパイクタイヤの事例など、優れた取り組みを積極的に進めてきた。仙台らしさというのは、こうした伝統を意識しながら進めていくべきだと思う。また、仙台市は、政令市という立場に加え、仙台都市圏の中で隣接する市町村との協力関係も必要であるため、それらも視野に入れて実効性のあるものにしていかなくてはならないと思う。</p> <p>環境団体の代表の方からもご意見を伺ったが、計画を実行するときに、中心となる団体の持続可能性が脆弱となっており、この辺も意識していかなければならないと思っている。</p> <p>今後、どのような素案を出していただけるのか期待している。</p>
<p>中静透副会長</p>	<p>皆様のご意見に感謝する。私も部会で検討させていただいているが、仙台らしさを出すために一番大事なことは、重点的な取り組みの「広がる！エコアクションプロジェクト」で言及されているが、仙台が持っている環境の良さを価値に変えて、新しい価値をつくり、そこを売り出していくということだと考え</p>

	<p>ている。部会では、市民一人ひとりの行動もそうだが、事業者の方々に加わっていただき、仙台が持っている環境価値を打ち出していかたいのではないかという議論をしており、本日は、そうした視点からのご意見をいただければと思っている。</p>
議長（渡邊会長）	<p>私からも、せっかくの機会なのでコメントさせていただく。</p> <p>体系や枠組みについては、分かりやすくまとめていただいております。部会での議論に敬意を表したい。重点的な取り組みについても、あえてこの3つに集約しているが、取り組みのイメージを見ると、踏み込んだ内容が記載されている。委員からのご意見にもあったが、施策のスピード感というのも必要だと思うので、プロジェクトの名称をもう一步踏み込んだ表現にすると、より中身が生きてくるのではないかと感じた。</p> <p>また、私自身は建築が専門なので、「グリーン&クリーン都市プロジェクト」のグリーンビルディングという言葉については、最近では、ネット・ゼロ・エネルギー・ビルディングの方が使われるようになってきている。ここも表現を変えるだけで随分印象が変わるのではないかと思う。私が申し上げたのは一例ではあるが、本日の皆様からのご意見を踏まえ、引き続き検討部会でご議論をお願いしたい。</p> <p>一巡したが、永幡部会長から何かあれば、お伺いしたい。</p>
永幡幸司副会長	<p>皆様より貴重な意見をいただき、感謝申し上げます。</p> <p>仙台らしさということに関して一言申し上げますと、SDGs（持続可能な開発目標）は、Sustainable Development Goalsのことだが、ぜひSDGsの「S」は仙台の「S」だと言いたいと考えている。仙台の環境のことを真剣に考え、みんなで自分たちのまちを良くすることが、地球環境を良くすることにもつながっているということを見せることができれば良いと思っている。</p> <p>委員の皆様には、これからもご協力をよろしくお願いしたい。</p>
議長（渡邊会長）	<p>一通りご意見を伺ったが、さらにご意見があれば、お願いしたい。</p>
佐藤わか子委員	<p>どういった表現にするかは別だが、「仙台市民一丸となって環境都市日本一を目指す」といったような壮大な目標を掲げると、インパクトがあると思う。</p>
議長（渡邊会長）	<p>大事なことだと思う。</p>
渡辺博委員	<p>永幡副会長のご意見に同感である。次期環境プランでは踏み込んだ内容が検討されるよう期待したいが、一方で、あまり踏み込んだ内容になると、市民の中に抵抗感が起きると思う。それを無くしていくためには、理解を得ることや、自分でもできるという手応えを感じるような提案をしていくことが必要である。議会で議論になるとすれば、抵抗感や市民の不利益にならないかという点だと思っているので、その点を工夫していただくような議論をお願いしたい。</p>
議長（渡邊会長）	<p>他に、よろしいか。それでは、この件は以上とする。</p> <p>もし追加でご意見等があれば事務局にお寄せいただき、事務局から検討部会</p>

	<p>に意見を伝えていただければと思う。永幡部会長初め、検討部会の委員の皆様には、引き続きよろしくお願ひしたい。</p> <p>続いて、議事・報告事項(2)「温室効果ガス削減アクションプログラム」について、事務局より説明をお願ひする。</p>
事務局(参事兼環境企画課長)	(資料2に基づき説明)
議長(渡邊会長)	それでは、皆様よりご質問やご意見をお願ひする。
佐藤わか子委員	仙台市内の特定事業者数と一般事業者数は、それぞれどれぐらいと見込んでいるのか。
事務局(参事兼環境企画課長)	現在のところ、特定事業者は、約100事業所程度と見込んでいる。一般事業者については、市内の全事業所数と考えると、経済センサスなどの資料に基づき、約5万事業所程度と見込んでいる。
渡辺博委員	関係者に対してはどのように説明してきたのか。
事務局(参事兼環境企画課長)	<p>条例制定の中間案の段階で事業者説明会を行ってきたところであり、今後も、説明会などを通じて、丁寧の説明してまいりたいと考えている。</p> <p>また、市民説明会を開催し、市民の皆様からもご意見を頂戴するとともに、パブリックコメントも実施している。</p>
中静透副会長	<p>評価に関して、2点申し上げる。</p> <p>1点目は、SBT (Science Based Targets) という、パリ協定の目標達成に向けて、企業が科学的根拠に基づき削減目標を立てるといふ、国際的な枠組みが奨励されており、日本の企業でも100以上が参加しているが、そういった枠組みに参加する企業を評価するような基準を入れていただけるといいと思う。</p> <p>もう1点は、資料2の8ページに社会貢献も評価するとあるが、その企業だけではできないこともあるので、例えば、NPOと連携した取り組みや、NPOに対する支援など、パートナーシップの取り組みも評価の対象としていただけるといいと思う。</p>
事務局(参事兼環境企画課長)	資料にお示しするとおり、事業者の皆様独自の取り組みについて自由に記載していただく欄を設けており、記載いただいた内容についても評価することを考えている。ご紹介いただいたような事例も含め、事業者の皆様から自らの取り組みを積極的に記載いただき、評価するような形にしてまいりたい。
永幡幸司副会長	点数をつけて、事業者が評価されるということだが、今のところ、どれぐらいの事業者がSやAと評価されることを見込んでいるのか。
事務局(参事兼環境企画課長)	定量項目については、省エネ法に基づき、原単位で前年度比1%以上削減していくという目標をベースにしている。全国では3分の2程度の事業者が目標を達成しているということ踏まえると、本市においても、一定数以上はS評価やA評価になるのではないかと見込んでいる。
永幡幸司副会長	あまり緩い評価でも困るが、厳し過ぎて誰もS評価が取れないというのも問

長	題である。運用していく中で、適宜調整していただけるといいと思う。
事務局（参事兼環境企画課長）	検討部会や環境審議会で議論いただいた際にも、事業者の皆様の取り組みを後押しするような制度であるべきだというご意見をいただいております、そうしたご意見を踏まえた制度設計にしていきたいと思います。
議長（渡邊会長）	先ほど事業者数のご質問があったが、特定事業者だけでなく、一般事業者へ裾野を広げていくことが、環境プランの「行動できる人づくり」にもつながっていくと思う。一般事業者の善意に期待するというにはなるが、市からの働きかけにより取り組んでいただけることが大事だと思うので、具体的に説明する際の資料について、例えば基本的な取り組みのメニューを多様化させ、参加してS評価を受けてみようという気持ちにさせるなど、事業者が取り組みやすいようにご配慮いただきたいと思う。
事務局（参事兼環境企画課長）	できるだけ多くの一般事業者の方々に、制度に参加していただくことが重要と考えており、資料の作り方などについても工夫してまいります。
中静透副会長	今の話と関連するが、中小企業の方は、温室効果ガスの排出量をどのように計算したらいいかなど、よく分からない部分がたくさんあると思う。例えば、ホームページに電力使用量などの数値を入力するだけで、簡単に排出量を把握できるような仕組みを用意することで参加を促すことができると思う。
事務局（参事兼環境企画課長）	ホームページ等を通じて、わかりやすく情報を発信し、それをご覧になってご関心をお持ちの事業者の方には、こちらから丁寧にご説明していきたいと考えている。 また、本日の資料にもお示しするとおり、温室効果ガスの排出量を簡易に算定できるような、計画書作成の際の支援ツールを整備するなど、事業者の皆様に参加しやすい制度にしていきたい。
木坂理絵委員	参考に記載いただいている横浜市、京都市、広島市の中で、京都市の評価基準は、他都市と比較して厳しいのか。京都市は、京都議定書に基づき早い段階から取り組みを進めているが、温室効果ガスが大幅に減少しているようなので、他都市と比較して特徴があるのか、教えていただきたい。
事務局（参事兼環境企画課長）	資料2の16、17ページのとおり、京都市の事例は、市が目標削減率をあらかじめ示し、削減目標の達成状況について評価する方法であり、定量評価を重視している。一方、横浜市は、削減目標の達成状況や、重点対策の実施状況など項目ごとに評価する仕組みである。また、広島市は、今回お示した案に近いもので、定量的にも定性的にも評価した上で、総合的に評価する方法だが、どちらかと言うと定性評価を重視している。
中静透副会長	私は京都に住んでいるが、京都は2050年までに温室効果ガス排出をゼロにするという宣言をしたので、その目標達成のためにも、こうした方法を採用していると思われる。
木坂理絵委員	理解を得ながら、無理なく進めるということも重要だが、京都市のように、ある程度強制的に削減させるという方法もあると思う。

事務局（参事兼環境企画課長）	事業者の方々にできる限り削減いただくことは重要だが、例えば、計画期間に事業活動が拡大するなど、事業者によって様々な事情があると思う。そうした中でも行われた取り組みについては評価すべきではないかという環境審議会での議論を踏まえ、定性評価と定量評価のどちらの観点からも評価するという仕組みとしたところである。
駒井武委員	<p>取りまとめをした立場で申し上げますと、この内容は横浜市、京都市、広島市と比較しても、ある程度厳しいものだと考えている。</p> <p>削減目標は設定しないこととしているが、1つは、既に省エネに取り組んでいる企業にさらに上乘せするというのは、なかなか難しいところがある。</p> <p>また、インセンティブについてご意見があったが、例えばホームページ等に支援ツールをつくっていただき、さらにS評価をとれるというふうに一般事業者の方も積極的に参加していただけるような仕組みをつくっていただきたいと思う。</p>
引地智恵委員	一般事業者の方は、どうやって参加していいかイメージが湧かない部分もあると思う。駒井委員がおっしゃったように、試しに取り組んでみて削減できたとなれば、参加しやすいと思う。あまり積極的に取り組みを行っていない企業でも実感できるような形や、従業員の方たちがみんなで取り組めるようなものがあればもっと意識が高くなると思う。
齋藤優子委員	定量評価に関しては非常にわかりやすいが、定性評価は難しいと思った。例えば、環境教育・学習の実施を評価項目としているが、市民の方を対象にしたものというのは、事業者の方には、少しハードルが高いと思う。こうしたところを評価するためには、先ほど中静委員がおっしゃったように、大学や環境団体とパートナーシップを組むことや、市民の方だけを対象とするのではなく、他の事業者の方も含めて発信することも評価していただけると良いと思う。
引地智恵委員	例えば学校で出前授業を行うなど、環境学習に取り組んでいる事業者は多いが、小さい企業で、なかなか対応できないということであれば、そうした呼びかけも必要だと思う。
議長（渡邊会長）	事務局からは何かあるか。
事務局（参事兼環境企画課長）	事務局の方から、こうした取り組みにより温室効果ガス排出が削減できる、あるいは評価の対象となるといったことを、分かりやすく示した事例集を作成し、事業者の皆様に示してまいりたいと考えている。
齊藤千映美委員	たくさんの企業や団体が、我が事として捉えなければいけないものだという目で改めて見ると、非常に余裕のある企業だと、積極的に参加しようという意識は高いと思うが、私の勤め先のように小さい職場だと、おそらく取り組むとしても最低限の目標を立てて、何とかそれを達成するというところで目いっぱいになってしまうと思う。インセンティブが大事だというご意見があったが、表彰しても、その表彰自体が市民の目に留まらなければ、意味がないと思う。例えば制度に参加した企業が使用できるマークをつくり、取り組みを「見える化」

	<p>するということも考えられる。マークをつけていないと企業の社会的イメージとしてまずいというぐらいになってくると、小さな職場でも重い腰が上がると思うので、その辺の戦略も併せてご検討いただければと思う。</p>
事務局（参事兼環境企画課長）	<p>アクションプログラムに参加している事業者だということがアピールできるようなマークやロゴをつくることは重要と考えている。</p> <p>また、この制度に参加することにより、エネルギーコストの削減にもつながり、経営的にもメリットになるというところも、丁寧に説明してまいりたいと考えている。</p>
議長（渡邊会長）	<p>よろしいか。それではこの件は以上とする。</p> <p>事務局においては、本日の議論を踏まえ、条例施行規則及び削減指針の策定を進めていただくようお願いしたい。</p> <p>それでは、議事・報告事項（3）その他について、皆様から何かあるか。</p>
各委員	特になし
議長（渡邊会長）	事務局から連絡事項等あるか。
事務局	今年度の環境審議会は、特段の案件がない限り、本日をもって最後となる。
議長（渡邊会長）	<p>以上で本日の環境審議会の議事を終了する。</p> <p>審議の円滑な運営にご協力いただき感謝する。</p>

令和 2 年 3 月 23 日

仙台市環境審議会会長

氏名 渡邊 浩文

仙台市環境審議会委員

氏名 石井 真由美